

正解及び解説・出典シート

第1 地理分野

問1 イ

広陵町は北部へ行くほど、つまり奈良県の東西の大河川である大和川に近づくほど、標高が低くなります。そのため、町の北部にある大字大場にある地点が一番低く、標高41～42m程度となっています。

問2 ア

広陵町は、西部に馬見丘陵という小高い丘が南北に連なっていますが、一番高い地点で真美ヶ丘配水場のある地点（馬見南2丁目）が一番高く、標高約80mとなっています。

問3 エ

広陵町は北に流れる川が多く、大きい河川は、東から曾我川、葛城川、高田川が流れています。そのほかにも広瀬川、土庫（どんご）川、尾張（おわり）川、馬見川、佐味田川などがおおむね北に流れています。

問4 イ

1980（昭和55）年に広陵南部特定土地区画整理組合が設立され、1987（昭和62）年に開発工事が竣工しました。

問5 イ

奈良県内に、町は全部で15自治体あり、最も面積の大きい町は、吉野町（9.65km²）で広陵町の約6倍、最も面積の小さい町は、三宅町（4.06km²）で広陵町の約4分の1の大きさです。（平成27年面積）

『国土地理院ホームページ』

問6 ウ

広陵町は、北から時計回りに河合町、三宅町、田原本町、橿原市、大和高田市、香芝市、上牧町の7市町に隣接しています。

問7 イ

平成26年に全国の精密な測量が一斉に行われ決定されました。それまでは16.33km²でした。1,741自治体中1,617位です。（平成28年10月現在）

『広陵町及び国土地理院ホームページ』

問8 ウ

広陵町は、1955（昭和30）年及び1956（昭和31）年に合併し、今の形になりました。それまで北部地域は、箸尾町（はしおちょう）でした。

問9 ウ

大字三吉は、赤部村、大垣内村、斉音寺村の3村が1876（明治9）年に合併し、その後明治の大合併で大字の一つになりました。そのため、真美ヶ丘ニュータウンができるまで香芝市に隣接するほど東西に長い区域を持っていました。真美ヶ丘ニュータウンの造成で分割された後も、町で一番広い面積を持っています。

『広陵町史』P579およびP713

問10 イ

現在、広陵町では、奈良県営御所浄水場で作られた吉野川の水を圧送して、各家庭に一定の水圧でお届けしています。なお、大野配水池には、奈良県営桜井配水場で作られた宇陀川の水も一部受水しています。

『広陵町 暮らしのガイド』P62

問11 ア

広陵町は日本の気候区分でいうと、瀬戸内気候もしくは太平洋岸気候に属し、周辺に比べ、夏場にあまり雨の降らない地域です。しかし、統計では、梅雨がある6月に最も雨が降っています。

『町勢要覧』資料編P2

第2 歴史分野

問12 エ

聖徳太子の建立と伝えられる大福寺は、江戸時代には30石が下付され、徳川家康から家茂までの歴代将軍の朱印状が残っています。

『広陵町 暮らしのガイド』

問13 ウ

上街道・中街道・下街道はそれぞれ南北の道、横大路は東西の道でいずれも奈良県を代表する古代の道です。下街道は、大和郡山市から南に伸び、広陵町大字萱野、南郷を経て、大和高田市、御所市に伸びる道です。

『広陵町史』P811～814

問14 ア

江戸時代初期、渇水に悩まされていた南郷地区の現状を見て、当時の大和高田市大字築山に南郷池を整備したため、「南郷どん」と呼ばれるようになりました。

『広陵町史』（旧）P301・302および『広陵町史』P296～301

問15 ア

讃岐神社は延喜式神名帳に記された神社と考えられ、現在は大物忌命（おおもものいのみのみこと）・倉稻魂命（うがのみたまのみこと）・猿田彦命・大国魂命（おおくにたまのみこと）を祀っています。竹取物語の舞台は、大和国広瀬郡散吉郷（現広陵町大字三吉）であるとされており、讃岐の一族が大和朝廷に仕えるため、竹の豊富なこの地に移り住み、竹取物語が生まれたとされています。

『広陵町 暮らしのガイド』P20

問16 エ

定願寺は大字南郷の西部に位置しています。毎年9月9日に年1回の御開帳が行われます。

『ふる里の文化財をたずねて』P55

問17 イ

大字広瀬では葛城川の堤に沿って八皇子神社があります。毎年12月1日の夜に、満15歳になった男子の成長を祝う「名替え」と呼ばれる行事が行われています。

『ふる里の文化財をたずねて』P83

問18 ア

大和鉄道（やまとてつどう）を略して「やまてつ」の愛称で親しまれていました。

『広陵町史』（旧）P66～68

問19 ウ

現在も灌漑用水として知られていますが、以前ほど使用量が減ったため、池の半分を埋め立て、平成28年11月にコープなんごうがオープンしました。

問20 ア

当時は、3町村の合併を望まず、大和高田市の合併を望んだ地区もあり、さまざまな争いがありました。最終的に当時の奈良県知事の専決処分により合併が実現しました。

『広陵町史』P689～691

問21 エ

沢村、大野村、寺戸村は明治の大合併時（1889（明治22）年）に河合村に属していました。しかし、1891（明治24）年に箸尾村に合併することに決定しました。

『広陵町史』P605～607

問22 ウ

広陵町誕生から遅れること1年、1956（昭和31）年9月に箸尾町が編入合併し、今の広陵町に近い形となりました。

『広陵町史』P691～693

第3 古墳分野

問23 ウ

広陵町の西部に広がる馬見古墳群は、佐紀古墳群、大和古墳群と並ぶ大和三大古墳群のひとつで、250基を超える古墳が築かれています。馬見丘陵に古墳が築造された4～5世紀、この地は有力な古代豪族葛城氏の勢力下にあり、葛城氏の繁栄と衰退という時流が、古墳の規模に反映すると考えられています。『広陵町 暮らしのガイド』P18

問24 エ

新山古墳は馬見丘陵南部に位置する前方後方墳で墳丘規模は全長約126m、後方部の幅約67m、前方部先端の幅約66m、高さ約6mです。墳丘は、陵墓参考地に指定され、宮内庁が管理しています。古墳時代前期中葉に馬見丘陵で最初に築かれた葛城地域の王墓と考えられます。

『ふる里の文化財をたずねて』P10

問25 エ 問26 エ

右の写真のとおり、巢山古墳は馬見丘陵の中央部に位置する前方後円墳で、墳丘全長220mは馬見古墳群中最大規模を誇ります。遺物は勾玉や腕輪、鏡、冠等であり、形象埴輪も多数出土しました。

その規模と出土品から4世紀末～5世紀初めに築かれた葛城氏の王墓とみられています。

『広陵町 暮らしのガイド』P18



問27 エ

東西18m、南北13mの小さな方墳で、鉄鏃や鉄釘などが検出したことから組合せ型の木棺が埋葬されたと考えられています。

『広陵町史』P818・819

問28 イ

狐塚古墳の下には、真美ヶ丘ニュータウンの北部を東西に走る、町道上田部・奥鳥井線が通っています。その当時は、保存か開発かで争いがあったようですが、結局開発となり、開通後は緑色で古墳があったことを示すように残されています。

『文化財と自然探訪マップ』

問29 ウ

周濠は大きな古墳にあるのが特徴で、牧野古墳以外は墳丘が100mを超えています。牧野古墳は、直径約60mの円墳で、1957（昭和32）年6月19日に国の史跡に指定されました。古墳が造られた時代は出土した須恵器等から6世紀末と考えられ、『延喜式』に記載されている押坂彦人大兄皇子（おしさかひこひとおおえのおうじ）の成相（ならいの）墓と推定されています。敏達天皇は父、崇峻天皇は叔父、孝徳天皇は孫です。

『広陵町史』P66～71、『ふる里の文化財をたずねて』P17、『文化財と自然探訪マップ』

問30 ウ

牧野古墳は横穴式石室のある円墳で、馬見北地内にあります。アのタダヲシ古墳は前方後円墳で大字三吉地内（隣接しているタダヲシ池は大字寺戸地内）、イのナガレ山古墳は隣接自治体である河合町大字佐味田地内、エの倉塚古墳も河合町大字佐味田地内にあります。

『文化財と自然探訪マップ』裏面

第4 寺院・神社分野

問31 ウ

大字百済（淵口地区）にある真宗大谷派の常念寺の境内には、常葉保育園があり、地域福祉にも取り組まれています。

『ふる里の文化財をたずねて』P78

問32 ア

大字中にある小北稻荷神社は、江戸時代、大和の国にあった郡山藩主の本多氏の保護を受け、造営されたのが今日の社殿であるとされています。

『ふる里の文化財をたずねて』P106

問33 ア

大字大場の北東の地に位置する巖島神社の境内には、1924（大正13）年の昭和天皇成婚記念碑文が残されています。

『ふる里の文化財をたずねて』P103

問34 ウ

大字百済にある百済寺境内にある現在の三重塔は鎌倉時代に建立されたと考えられます。また、大織冠（たいしょくかん）と呼ばれる本堂には、現在の桜井市にある談山神社の本殿を移築したものであるとされ、その中には毘沙門天像、菩薩立像がまつられています。

『広陵町ホームページ 百濟寺三重塔』

問35 エ

教行寺は、山号を「安静山」といい、浄土真宗大谷派の寺院で、阿弥陀如来立像を本尊としています。

1475（文明7）年に開山された歴史ある寺院です。

『広陵町史』P899

問36 ア

町のパンフレットで表紙を飾るなど町を代表する歴史的建造物です。現在みられる三重塔は、鎌倉時代に創建されたと伝えられます。

『広陵町史』P876、『文化財と自然探訪マップ』

問37 ウ

高さ31cmの仏像で、頂上の仏面から蓮華座まで緻密な彫刻が施されています。

『町勢要覧』P12

問38 エ

讃岐神社と櫛玉比女命神社は、延喜式神名帳に記された神社です。讃岐神社は竹取物語の舞台とされており、櫛玉比女命神社は明治以前には弁財天社と呼ばれていました。八坂神社は古寺集落に鎮座する神社で素戔鳴尊（すさのおのみこと）を祀っています。

ちなみに、八大神社は京都府左京区にある神社で、宮本武蔵が境内の一条下り松で吉岡一門と決闘したと伝えられています。

『広陵町 暮らしのガイド、京都観光情報 丸竹夷』

問39 イ

櫛玉比女命神社の東南隅に井戸があり、俗に「クサ神井戸」といわれています。子どもに瘡苔病が発生すると、この井戸に詣で、患部を井戸水に浸すと治るといわれています。

『広陵町史』（旧）P436・437

問40 ウ

1284（弘安7）年に現在の天川村の天河弁財天を勧請したことよるといわれています。

『広陵町史』P962

問41 ウ

弘法大師が梵字形の池を掘らせたと言われており、「あ」字は田原本町の秦楽

寺にあり、「ばん」字は百済寺にあり、「うん」字は与楽寺南の現在の東部農村広場にあります。

『広陵町史』（旧）P438

第5 特産品分野

問42 エ

古くから大和木綿（やまともめん）の産地で知られた広陵町が、近年環境保全や原料の安全性を求める世論の高まりを受け、遊休農地を利用したオーガニックコットンの栽培に取り組んでいます。栽培面積は徐々に拡大しています。

『町勢要覧』P17

問43 イ

広陵町は日本一の靴下生産地である奈良県の中核産地として発展し、広陵町は国内の靴下生産業界に揺るぎない地位を築いています。また、町内に堀田プラスチック株式会社があり、年間1,000万本生産される内、約700万本生産され、全国シェアは約7割となっています（平成27年現在）。金魚すくいでも有名な大和郡山市が近くにあることからポイの生産が盛んになったようです。

『町勢要覧』など

問44 ア

昭和40年頃から盛んに栽培されるようになり、1968（昭和43）年および1987（昭和62）年に国の産地指定を受けました。

『広陵町史』P748

第6 祭・イベント分野

問45 エ

奈良県内では最も遅い秋祭りで、寒い時期に開催されたことからこの名がついたと言われていています。

『広陵町史』P1082

問46 エ

はしお元気村では、毎週水・土・日曜日午前8時から正午まで、地元産の安心で安全な新鮮野菜等の販売を行っています。毎回とても賑わっており、特定の野菜は、あっという間に売り切れてしまうこともあります。

『広陵町くらしのガイド』P78

問47 ウ

第20回の記念に初めて打ち上げ花火を行いました。毎年協賛する企業や個人の方が増え、豪華になっています。

問48 ア

大字広瀬のうち氏子である田中・広瀬・杉の木の3地区が正月の初旬に行う、一年間災害が起こらないように祈るための神事で、太さ10cmの縄を編みあげて神社まで運び入れ、木々に掛けます。3地区で合わせて200mほどの綱となります。

『広陵町史』P1078～1080

問49 ア

奈良大立山まつりは、奈良市の平城宮跡で、平成28年から奈良県主催で行われている新しいお祭りです。当町からも大字三吉（大垣内地域）の立山の展示が行われ、これは、専光寺とその周辺で伝わる祭りです。イの広陵かぐや姫まつりは広陵町が主催で毎年9月の仲秋の名月の時期に行うイベントです。ウの広陵クラフトマルシェは広陵町商工会青年部が主催で5月に実施するものづくり作品の展示等を行うイベントです。エの靴下の市は4月と11月の年2回、広陵町商工会が主催で広陵町の靴下をはじめ、地域の特産品を販売するイベントであり、いずれも竹取公園内の「みんなの広場」で開催されています。

問50 エ

大垣内にある専光寺で行われる地蔵盆で、もとは、中世の在地武士である細井戸氏が始めたともいわれ、その年に婚礼や新築があった家などを中心に作り物が置かれます。作り物は、その年の代表する人物を題材に作られ、多くの見物客で賑わいます。

この祭りは、平成8年に広陵町の無形民俗文化財に指定されました。近年、祭の存続が危ぶまれたことから大垣内立山保存会が結成され、文化の伝承だけでなく、より賑わいのある祭りへの取り組みが行われています。

毎年8月24日に開催されます。

『広陵町くらしのガイド』P14

問51 イ

葛城地域観光協議会（大和高田市、御所市、香芝市、葛城市、広陵町）が、共同でこの地域を舞台にした映画を制作しました。広陵町立図書館に赴任した新人司書が、ある老夫婦の願い事をかなえるために各地域の観光スポットを巡ります。平成29年2月上映開始。皆さんもぜひ見てくださいね。

『町広報紙』平成28年8月号・10月号・平成29年1月号

問52 ウ

大字弁財天にある櫛玉比女命（くしたまひめのみこと）神社の秋祭りで、箸尾地区の4大字（大字弁財天、大字南、大字的場、大字萱野）の地車を箸尾地区を引き回し、勇壮な宮入りが行われます。

『広陵町くらしのガイド』P15

問53 ア

平成28年の第22回広陵かぐや姫まつりでは、祭り2日目の午前と午後に1回ずつ、妖怪ウォッチのキャラクターショーが行われました。

『町広報紙』平成28年9月号挟み込みチラシ・『町ホームページ』

第7 行政分野

問54 エ

さわやかホールは平成13年5月、はしお元気村は平成9年4月（旧サン・ワーク広陵）、図書館は平成9年7月、広陵東小学校（建替）は平成14年4月にそれぞれ建築されました。

『町勢要覧』P9・10

問55 ウ

長年町民が希望していた中学校給食がセンター方式で始まりしました。平成28年9月5日から香芝市・広陵町の中学校で給食が開始されました。

『町広報紙』平成28年8月号・10月号

問56 イ

“住み続けたいくなる”まちづくりは、平成27年度に策定した「広陵町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標の1つであり、他に「結婚、出産、子育ての希望をかなえるまちづくり」「活力あふれるまちづくり」「地域と地域を連携するまちづくり」の4つの基本目標からなっています。

『町広報紙』平成28年7月号など

問57 ウ

平成28年の町議選には、16人が立候補し、14人が当選しました。

『広陵町ホームページ』

問58 ア

広陵町シルバー人材センターでは、馬見中1丁目の見立山公園地内に、子育て支援事業として平成20年6月から一時預かり施設「ポケット」をオープンしました。

『広陵町ホームページ』・『町広報紙（子育て支援情報）』

問59 ア

役場庁舎は、1971（昭和46）年10月に竣工しました。平成27年9月から平成28年11月まで役場庁舎の耐震補強工事が行われ、この工事で、築60年（2031年）まで使用する予定となっています。

『広陵町史』P1094、『町勢要覧』P9

問60 イ

チャレンジデーは、広陵町では2回目の挑戦で、神奈川県寒川町と対戦。参加率は、広陵町が49.4%、寒川町が53.2%で惜しくも敗戦となりました。今年の5月の最終水曜日（5月31日）にも挑戦しますので、ぜひご参加ください。
『町広報紙』平成28年7月号・『広陵町ホームページ』

問61 ア

美浜町は、福井県の西南部に位置する漁業や観光などが盛んな町。平成28年10月には、美浜町の子どもたちが、修学旅行の際に、広陵町を訪れてくれました。
『広陵町くらしのガイド』P7

問62 ウ

図書館は、平成9年に開館してから町内外を問わず多くの方が利用されています。一時期、同規模の図書館の中で、一人当たりの貸出冊数が日本で1、2を争うこともありました。

問63 ア 問64 イ

町の木はモクセイ、町の花はヒマワリと制定されています。町民憲章とともに、1977（昭和52）年12月20日に制定されました。
『広陵町くらしのガイド』・『広陵町ホームページ』

問65 エ 問66 ウ

幼稚園は広陵西幼稚園、広陵西第二幼稚園、広陵東小学校附属幼稚園、広陵北幼稚園、真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園、真美ヶ丘第二小学校附属幼稚園の6園あり、小学校は広陵西小学校、広陵東小学校、広陵北小学校、真美ヶ丘第一小学校、真美ヶ丘第二小学校の5校があります。

問67 イ

平成27年11月2日に、香芝市・広陵町相互連携に関する協定書調印式を行い、両市町の住民サービス向上や福祉や教育の増進のため、公共施設の整備や相互利用、まちづくりのあり方などあらゆる場面で連携していくものです。

これにより共同の中学校給食センターをはじめ、はしお元気村、マミホールなどの子育て広場の相互利用が始まり、平成29年4月から近鉄五位堂駅前の駐輪場や広陵パークゴルフコース等が各市町間で同じ料金となります。

『町広報紙』平成27年12月号

問68 イ

エリアメールは、広陵町内の各社携帯電話基地局（アンテナ）から一斉に送信される伝達メールで、登録メールのように登録していなくとも、町内全

域の携帯電話に情報を一斉に送信することができます。

エリアメールに加え、防災行政無線等の整備を行い、災害時の伝達手段の多重化を行っています。

問69 ア

平成27年4月、広陵町のイメージキャラクターとして、町制60周年を迎えた節目に生まれ変わりました。フルネームは、月野かぐや。友好交流都市美浜町の「へしこちゃん」とも仲良しです。なお、4月15日は、広陵町が誕生した日でもあります。

『広陵町くらしのガイド』P7

問70 イ

かぐやちゃんのチャームポイントは、漆黒の黒髪です。かぐやちゃんのモデルとなった『竹取物語』のかぐや姫も、とても魅力的な長く美しい黒髪で、多くの男性を夢中にさせていたようです。

『広陵町くらしのガイド』P7

問71 エ

広陵町町歌の歌詞は、以下のとおりです。

- 1 大和青垣 四季美わしく
かおる文化の さやけさよ
映えし万葉 承けつぎて
われらふるさと 築きたつ
広陵 広陵 わがまちよ
- 2 大和広瀬野 風さわやかに
萌ゆる緑の ゆたかさよ
高きなりわい 育みて
われらふるさと 担いたつ
広陵 広陵 わがまちよ
- 3 大和葛城 雲晴れわたる
真美にかがやく 丘並みよ
拓く未来に 魁けて
われらふるさと 明日にたつ
広陵 広陵 わがまちよ

『広陵町例規集』

問72 ア

広陵町では町制60周年を記念して、豊かな自然と歴史や文化に恵まれた広陵町を町内外にアピールするため、広陵町イメージソング「広き陵（ひろきお

か)」を制作しました。歌詞は、以下のとおりです。

1 まほろばの光と風 月日を重ね

ふしぎの出会いと きずなをむすぶ

広き陵のヒストリー

さあ ここにたとう

my home town KORYO

2 今日の光をあび 笑顔を重ね

大地のめぐみと わきたつ力

広き陵のエネルギー

さあ たのしもう

Let's enjoy KORYO

3 明日の風を感じ 真理を重ね

希望のみちと みんなの声

広き陵のファンタジー

さあ すすもう Let's go

bright future KORYO

『広陵町ホームページ』

問73 イ

古くから地域の金融機関として、また町の指定金融機関として南都銀行は町に貢献していただいています。最近の地方創生事業のさらなる推進のため、平成28年10月3日に包括連携協定を締結しました。

『町広報紙』平成28年11月号

問74 ア

故林田孝一氏は、二度町長を務められましたが、初代広陵町長の故池端若松氏の方がさらに長く、15年余り町長を務められました。

『町勢要覧資料編』P8

問75 イ

現在の町長のスローガンは『みなさんと共に「いい町」づくり』です。誰もが「住んでよかった」「ずっと住んでいたい」と実感できる住みよいまちにしていきたいと考えています。

問76 エ

広陵町では現在、「あすなろクラブ」「あすなろ第二クラブ」「かしのきクラブ」「くすのきクラブ」「ひまわりクラブ」「もくせいクラブ」「すぎのきクラブ」の計7クラブを開設しています。

問77 ア

地域公共交通として本格運行を始めた広陵元気号。かわいいラッピングのバスが町内をくまなく運行していますので、ぜひ一度ご利用ください。

『町広報紙』平成28年10月号・11月号

問78 エ

平成9年4月に竣工された広陵勤労者総合福祉センター（サン・ワーク広陵）は平成19年4月から名称を「はしお元気村」とし、広陵町のサービスカウンターとして、また地域の方の憩いの場として重要な役割を担っています。

『広陵町ホームページ』

問79 エ

広陵町・香芝市の中学生が考えた愛称「スマイル」。おいしい給食を食べて、みんながスマイルになりますように！

『町広報紙』平成28年8月号

第8 地域・道路分野

問80 ア

大字萱野にある教行寺の境内には、樹高20mにも達するイチョウの木があります。

『ふる里の文化財をたずねて』P92、『広陵町史』P1169

問81 ウ

広陵町では、平成28年4月28日に人口35,000人を突破しました。しかし、それ以降は微増微減を繰り返し、35,000人前後を維持しています。

問82 エ

平成21年9月1日から、大字三吉の竹取公園にある公園第1駐車場及び第2駐車場が、無料で全面開放されました。以降、多くの方が利用しています。

『広陵町ホームページ』

問83 ア

大字古寺にある広陵交通公園には、交通信号・道路標識・横断歩道・歩道・自転車専用道・車道・踏切・交通教室(100人収容)といった施設があります。歩道橋はありません。

『広陵町ホームページ』

問84 イ

以前はもっと多く左折可の交差点がありましたが、交通安全の観点から現在は、広陵町内で2か所となっています。ちなみに奈良県は左折可交差点が全国

で最も多い県でもあります。

問85 エ

馬見北は9丁目、馬見中は5丁目、馬見南は6丁目まであります。

問86 ア

今回のリオオリンピックが初出場だった榊井俊樹氏は、日本の選手団の中で最年長でした。障害馬術という日本であまりなじみのない競技に参加され、その雄姿は、地球の反対側にも確かに届きました。

『町広報紙』平成28年8月号

問87 ウ

竹取公園駐車場の一面に高さ3メートルほどの竹のモニュメントがそびえ立つ「金メダルの塔」。この塔は、町制50周年の際に名誉町民である金メダリストの野村豊和氏、野村忠宏氏の栄誉を称えて建造されました。

『町広報紙』平成27年10月号裏表紙

問88 イ

モニュメントの下には、タイムカプセルが埋められています。このタイムカプセルを開くのは、「町制100周年の時」。つまり、2055年となっています。

『広陵町史』表写真より

問89 ウ 問90 ア

広陵元気号は、平成28年10月に本格運行がスタート。3路線があり、中央幹線は、田原本町の国保中央病院まで、西部支線は、香芝市と広陵町の間の道路を走っています。また、中央幹線と北東部支線は、どちらも大和高田市にある近鉄大和高田駅まで走っています。

各車両のデザインは、町内の小中学生を対象に募集し、見た目が素敵です。ぜひご利用ください！

問91 イ

都市計画法上、低層建築しか認められない広陵町では、おおむね5階建ての建物しか建築できません。

問92 ウ

昔の河川は、蛇行部分が多く、曾我川でもかなり蛇行し、付近の住民は洪水などの被害に悩まされていました。しかし、大規模工事が可能になってからは、県内の多くの河川で直線的に改修しているところがみられます。

広陵パークゴルフコースも、この南部の曾我川の流路跡にあります。

問93 ウ

真美ヶ丘ニュータウンの名称で呼ばれていますが、大和真美ヶ丘ニュータウンという名称です。

真美ヶ丘ニュータウンは、1973（昭和48）年に事業認可され、翌年1974（昭和49）年に開発工事が開始され、1983（昭和58）年に入居が開始されました。

問94 イ

1976（昭和51）年に年間乗車人数602,979人が最大となっています（現在も中間駅では、大輪田駅に次いで乗車数の多い駅となっています。）。

近年では、減少が進み駅は無人駅となり、列車もワンマン運転となっています。

問95 エ

近鉄箸尾駅は、広陵町の北部にあります。駅舎には、竹をモチーフにしたデザインが取り込まれています。

問96 ウ

大和鉄道は、1961（昭和36）年に信貴生駒電鉄に合併された後、1964（昭和39）年に近鉄に合併され現在に至ります。

問97 エ

棟の妻面の明かり窓にかぐや姫が描かれています。また、改札口横の窓には、竹をデザインした格子がはめられています。

問98 イ

竹取公園には、展望広場の横の池に口を開けた緑色の龍がいます。他にも見所や遊ぶ場所がたくさんあります。

問99 イ

かつらぎの道は、歩行者・自転車専用道路のため通勤・通学の方に便利で、緑が多く、憩いの場となるような道路です。

問100 エ

1918（大正7）年4月25日に大和鉄道として開通し、翌日（26日）に教行寺で、箸尾村の開通祝賀会が開かれました。

開通当初は、電化されておらず、小さな蒸気機関車が走り、貨物列車も走っていました。

後に、田原本から桜井まで路線が延伸されましたが、戦時中に休止され、そのまま廃止されました。線路の跡は、現在、県道14号線の一部になっています。